

正しい選択

浅井 忍

人 物

藤本香織（27）（48）スナック従業員

山崎賢一（33）（54）大企業の社長

藤本優茉（5）（27）香織と賢一の娘

大島楓（40）（61）スナックのママ

矢島隆（50）賢一の秘書

前田五郎（50）（71）スナックの常連客

山崎麗奈（30）賢一の妻

○スナック「友」・表（夜）

スナック「友」と書かれたスタンド看板。

その前に停まっているタクシー。

酔っ払いの前田五郎（50）をタクシーに乗せる藤本香織（27）と大島楓（40）。

香織は、丈が短めのタイトスカートを履いている。

香織「ほらほら、前田様、しっかりして下さいよ」

前田「俺はまだ、飲める」

楓「また来てください。お待ちしてます」

前田「ママ、まだ飲めるまだ飲めるよ」

楓「はいはい。（運転手に）すみません。出して下さい」

楓、タクシーの扉を閉める。

走り去るタクシー。

タクシーに向かってお辞儀をする香織と楓。

楓「香織ちゃん、お疲れ様。今日はもう上が
つていいよ」

香織「ありがとうございます」

○アパート外観→大島家玄関前（夜）

古い2階建てアパート。

楓がアパートの階段を上っている。

部屋の鍵を開けて入ろうとするが、鍵
が掛かって入れない。

香織「え、開いてたの」

慌てて鍵を開け、中に入る。

○同・台所→居間（夜）

台所の横に居間がある。

玄関から居間は見えない。

台所の端に姿見が置いてある。

玄関には、小さな女の子の靴と高価そ
うな男の革靴2足が並んでいる。

香織、靴を見て驚いて、中に入る。

香織「茉優！」

台所を通って、居間に入る香織。

途中、持っていた鞆を台所で捨てる。

居間には藤本茉優（5）が布団で眠っている。

その側で座って茉優を見ている山崎賢一（33）と少し離れたところに立つ

矢島隆（50）。

山崎を見て驚く香織。

香織「賢一さん……」

賢一「随分大きくなったね。女の子だからかな、僕に似てる」

賢一が茉優の頭に触れようとする。

香織「やめて」

賢一から守るように、茉優の身体の上に手を置く。

香織「今更何なの？」

賢一「香織、娘を今まで育ててくれてありがとう」

香織「は？」

賢一「子どもがね、出来ないんだよ。妻は子

どもが大好きでね。僕の会社も引き継いで
もらわないといけないし」

香織「だから何？」

賢一「僕も妻も、女の子だからダメ、とかは
ないんだ。今の時代、女性も社会で活躍し
ていけないとね」

賢一が矢島に目配せをする。

矢島が香織の前に座り、アタッシュケ
ースを開ける。中には札束が入ってい
る。

香織、アタッシュケースを手で払いの
ける。

香織「馬鹿にしないで！ 茉優を渡すわけな
いでしょ！」

部屋に置いてある置時計を見る賢一。

時計の針は12時半を指している。

賢一「こんな時間まで何を？」

香織「働いてるんでしょ！ 忘れたの？ 産
んでも認知出来ないって言ったの。だから
私は一人で産んで一人で育ててるの。茉優

の親は私だけ、私だけなの」

賢一「僕たちが育てれば、こんな時間に一人でいることはない」

香織「この子はしっかりしてるの。そこらの子どもと違うの」

賢一「鍵が開いてたよ」

香織「そんなこと……」

賢一「まだ5歳だ」

香織「これからは大丈夫。きちんと教える」

賢一「君と同じ道を歩ませるのか？」

香織「何…それ」

賢一「僕たちが育てれば、何不自由なく暮らせる。やりたいことは何でもやらせてあげれる。教育だって、しっかりつけさせられる。仕事も結婚も、全て手に入る」

香織「渡すわけないでしょ」

賢一「これは茉優のためなんだ」

香織「……」

賢一「正しい判断をするんだ。娘の将来のため」

香織「……」

茉優を抱きかかえ、連れていく賢一。

香織「待つて」

引き留めようとする香織。

香織を制止する矢島。

矢島「奥様はとても愛情深く、お優しい方です。賢一様が仰ったように、茉優様の将来のためであります。茉優様を本当に思っているのであれば、賢一様と奥様にお任せ下さい」

香織「……」

矢島、香織に一礼して出ていく。

茉優の泣き叫ぶ声が聞こえる。

茉優の声「ママ！」

香織「茉優！」

香織、慌てて部屋から出ていく。

○アパート前（夜）

一台の高級車が止まっている。

賢一、泣き叫ぶ茉優を抱きかかえ、車

に歩いていく。

アパートの階段を下りてくる香織。

香織「茉優！」

茉優「ママ」

山崎麗奈（30）が車から出てくる。

麗奈は高級そうなスカートを履き、綺

麗な恰好をしている。

麗奈のスカートが風になびいている。

香織、麗奈を見て立ち止まる。

麗奈、茉優の頭を優しく撫でる。

賢一、車に乗り込む。

麗奈、香織を見て、一礼する。

車に乗り込む麗奈。

茉優「ママ！」

茉優の声を聞き、追いかける香織。

香織「茉優！ 茉優！」

車が走り去って行く。

車を追いかける香織。

躓き、転ぶ香織。

香織「茉優！」

車が見えなくなる。

香織、立ち上がり、急いで家に戻る。

○同・台所（夜）

香織が入ってくる。

床に落ちている鞆からスマホを取り出す。

香織「タクシー、いや、警察」

スマホを操作しようとするが、ふと、
姿見に写った自分の姿を見る。

× × ×

回想。

アパート前。

車から降りてくる麗奈。

麗奈の綺麗なスカートがなびいてい
る。

× × ×

姿見に写った自分の姿を見ている香

織。

力なくスマホを落とす。

香織「……………」

呆然とする香織、一筋の涙が零れる。

○会社の社長室・中

T・20年後

茉優（27）が取材を受けている。

カメラマンに写真を撮られている。

少し離れた所に立っている賢一（54）。

茉優「我が社から女性がもっと活躍できる組織の仕組みを作り……」

満足そうに茉優を見守る賢一。

○スナック「友」・中

音楽が流れ、数人の客が飲んでいる。

カウンターの中には、香織（48）、楓（61）がいる。

カウンター席に座る前田（71）。

楓は他の客の相手をしている。

香織が前田の前に酒の入ったグラスを置く。

前田は酔っぱらっている。

前田「息子なんか、全然、実家帰って来ん！

薄情な息子だよ……」

香織「息子さんも忙しいのかもね」

前田「香織ちゃん、娘だっけ？ 居たよね？

どうしてるの？ 会ってるの？」

香織「（苦笑い）」

前田「母親が子ども捨てたらいかん！ 香織ちゃん、これだけは言わせて」

楓がやって来て、

楓「はいはい、飲み過ぎ！（香織に小声で）

裏で休憩しておいで」

前田「そんな飲んでない」

楓「はいはい」

香織、出ていく。

○ 同・裏手・外

外に出てくる香織。

空のビールケースの上に腰を掛け、煙草を吸う香織。

服のポケットから雑誌の切り抜きを出し眺める。

切り抜きには、茉優の写真と共に『期待の次期女性後継者』と書かれている。

切り抜きを見つめ、優しく笑う香織。
再びポケットに仕舞い、煙草の火を消し、中に戻って行く香織。